

第1回市民啓発部会を開催しました

○6月24日（火）に第1回市民啓発部会を開催しました。参加者は、部会メンバー7人、事務局4人の11人でした。

○今回の議題

- (1) 令和6年度 of 取組についての振り返り
- (2) 令和7年度の目標設定・今後の取組方針の検討

○部会での検討事項等

- (1) 令和6年度 of 取組の振り返り

- ・部会委員が自身の所属する職能団体や職場単位で研修会を行ったところ、ACPについて知らなかった職員が4割で、職種によって差があった。
- ・部会で作成したリーフレットの活用についての検討を重ね、“目にする機会を多くする”とともに、地道な活用と啓発を続けている。



- (2) 令和7年度の目標設定・今後の取組方針の検討

- ① 目標設定について

- ・専門職が大々的に市民へ啓発することは難しいが、個々の患者や利用者に対して適切にアプローチすることで、市民がACPについて考えたり、家族や専門職と意思を共有できたりする機会が持てればよい。

- ② 今後の取組方針について

急変時対応部会から本部会との合同研修会の実施について提案

…急変時対応部会では、「急変時に備えて本人や家族の意向を確認できていない」こと、「気持ちは移ろいゆくもので、その共有が難しい」といったことが課題

となっており、ACPに取り組んでいる本部会と共通する部分がある。

＜研修を行うにあたり、普段の取組と課題に感じていることについて意見交換＞

- ・“記録”して、“共有”することが重要。伝わりやすいように書き方を工夫している。
- ・多職種がアンテナを張って利用者や患者のちょっとした“気づき”をキャッチできるとよい。
- ・“共有”は顔の見える関係が重要。
- ・「ACPの最期をどう迎えたいか」と急変時は被るところがあると思う。
- ・“共有”は重要であるが、“共有の弊害”もある。本人と家族の思いが異なるときに、どうしてよいか悩む場面がある。
- ・本人の意向が重要であるが、本人の安全な生活を考えると、本人の意向ばかりを聞いていられないときがある。

＜意見交換のまとめ＞

- ・キーワードは“気づき”“共有”“記録”。
- ・本人の意向を尊重しながらも、本人が安全に生活するための介入方法を考えていく必要がある。
- ・専門職の感度を高めていく必要がある。聴き取った情報を、多職種と共有することが重要。

○令和7年度の目標と取組方針

【目標】

専門職が適切なアプローチをすることで、市民が思っていることや大切にしたいことを考え、家族や専門職と共有できる。

【取組方針】

- ・令和6年度に引き続き、職能団体や職場単位で研修会等を行う。
- ・リーフレット等を活用し、日頃の業務の中で市民に対して啓発を行う。
- ・急変時対応部会と合同での研修を実施する方向で進めていく。

◇ 次回部会は8月下旬を予定